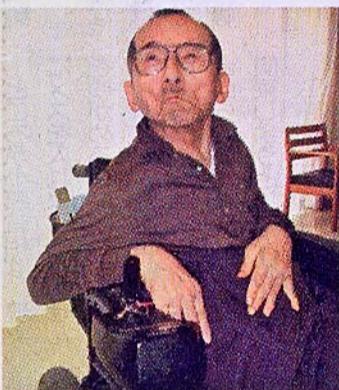


私は脳性まひの言語障害と四肢まひがあります。手はわずかに指先の自由がきき、物をつかめる程度で、ひじと肩は動かせません。

戦争に行くことが、人間の第一条のように信じられていた時代、その条件を満たせない者は、非国民どころか、人間でないもののように小さくなっています。私たち障害者は外出もできず、自宅に潜んでいました。それでも兵士の数が不足

日本障害者協議会  
顧問・俳人

花田 春兆さん



はなだ・しゅんちょう 1925年大阪生まれ。79歳。日本障害者協議会顧問。俳人。身障者同人誌『じのめ』を創刊、編集にあたる。俳人協会全大會賞などを受賞。障害者自立支援法案で応益負担導入反対を主張。

## 私たちは戦争時代「人間」でなかつた

一九四四年、私は十九歳で徴兵検査を受けました。車のなかで、ひじと肩は動かせません。車に行き、ひたすら待つていました。将校が来て、車の中の私をチラッとみて、殺されたくないませんでした。敏速な行動をしなければ、真っ先に葬られてしまふ。

當時、ただ一つの肢体不自由児の学校であった私の母校・東京市立光明国民学校（現都立光明養護学校）にも空襲が迫っていました。その後、長野県に集団疎開しましたが、疎開先に軍から渡された青酸カリの大さなびんがあったときります。戦火の中、足手などいになるだけでみずから死ねない存在なので、死なせる準備をしたのでしょう。

### 戦争が障害生む

武力による紛争解決である戦争は、障害者に物理的、心理的な極限状態をもたらします。戦争こそ障害者を大量発生させる最大の要因です。

います。防空壕に一人取り残されたあと、急に爆音が頭上を振るが、ひつそりと音が絶えてしまったときの心細さは、言いようがありません。

当時、ただ一つの肢体不自由児の学校であった私の母校・東京市立光明国民学校（現都立光明養護学校）にも空襲が迫っていました。その後、長野県に集団疎開しましたが、疎開先に軍から渡された青酸カリの大さなびんがあったときります。戦火の中、足手などいになるだけでみずから死ねない存在なので、死なせる準備をしたのでしょう。

第九条は憲法の根幹です。生存権を保障した第二戦後六十年の節目に「戦後の総括と超克」を名目にした改憲運動がいよいよ勢いを得ています。いったん戻り始めれば、止めるのは容易なことではありません。六十年前で止まってくれればまだ救われるのですが、その十年も前までいる。二十年も前までいる。そうなります。

今度の総選挙で歯止めを掛けなければなりません。

自由を奪われ、自分のやりたいことがやれなくなったり、いまある生活が全部なくなる、奪われてしまうのが戦争です。敵と刃（やいば）を交える最前線だけの問題ではありません。国々みんなの問題です。私も

# たしかな野党比例は共産党へ

しんぶんフ

## ■「アジア

よくスタート  
部で議員總会  
讀國から支持の声が上がりなかつたが、近くに友人のいないことを世界に印象付けた。

日本アジアからの孤立を認めた公明新聞10日付「主張」

小泉「改革

介護保険のホテルコスト  
年金保険料引き上げなど

配偶者特別控除廃止  
健康保険本人負担引き上げ  
雇用保険料引き上げなど

